

城山中学校
学校だより

校訓

「覇気と感動」「自治の精神」

覇気

令和5年度 第9号

令和6年3月18日(月)

小田原市立城山中学校

校長 市川 嘉裕

学校教育目標

日々の生活の中で校訓：「覇気と感動」「自治の精神」を体現する生徒の育成

第77回卒業式

3月12日(火)に令和5年度城山中学校第77回卒業式を挙行し、89名の卒業生が巣立っていきました。5年ぶりに在校生全員が参加し、ご来賓・保護者の皆様をはじめ、中学校生活に関わりの深い人々が参列し、卒業生の雄姿に心揺さぶられる感動的な式となりました。



アスリート講演会

3月8日(金)にアスリート講演会を行いました。講師はパラリンピック2004アテネ・2008北京・2012ロンドン大会出場の元ライフル射撃選手の田口亜希さん。8月に開幕するパリ2024パラリンピック日本選手団団長を務めることが、講演の2日前にメディアで発表されたばかりというタイミングでした。パラアスリートとしての経験談を含め、夢や目標・共生社会についてお話されました。



<生徒の感想より>

- ・自分に必要なものがなくても、挑戦することが大切なんだと思った。
- ・障がいを持ったのにくじけずどんなことにでもチャレンジしていることに感動した。
- ・急に足を動かせなくなったときのことを聞いて、最初は受け入れることが難しいという場面を私も経験したことがあったので、とても励みになった。
- ・障がいのある人達が少しでも楽に生きられる社会にしていきたい。
- ・日頃から障がい者との関わりを意識したい。障がい者用の駐車場やトイレは使わない。周りの人にも伝えたい。
- ・パラリンピックの歴史やメダル(色が触って分かる)の話を聞いて、パラリンピックを身近に感じたし、今年のパラリンピックがとても楽しみになった。

2年生総合的な学習の時間(STEAM 教育)発表会

3月13日(水)に「より多くの人を惹きつける小田原駅」について、2年生が考えた「小田原駅の魅力UPプラン」を発信する発表会を行いました。小田急電鉄他小田原駅旅客5社の協力のもと、「より多くの人を惹きつける小田原駅にするにはどうしたらよいか」という課題に対し、代表の4グループが様々な切り口で課題解決に取り組んだ内容を発表しました。



金融教室

～運転免許取得にはいくらかかる？

中学生に役立つ！分かる！お金のはなし～

3月15日(金)にSMB Cグループ社員の方々による金融教室を行いました。「お金は目標ではなく、自分がやりたいことを実現するための手段」という前置きで、生活設計や家計管理・金融トラブルなど、これからの時代に必要なお金の知識を、1年生・2年生それぞれに合わせた内容でお話いただきました。



<受講後のアンケートより>

- ・金融について最初全然知らなかったもので、丁寧に詳しく、分かり易く説明してくれて、知識や理解が増えた。
- ・車や家、結婚など生きるためにかかるお金の多さが印象に残った。結婚式とか挙げたいけど、新婚旅行に行ったり、マイホームを建てたりしたいから、お金がたくさん必要なんだなと思った。
- ・結婚式は結構お金がかかるということが印象に残った。楽しかった。
- ・「お金のため」に働くのではなく、その先の夢を考えるということが印象に残った。
- ・ワンクリック詐欺を初めて聞いて、お金にはそんな危険性があるんだなって思って怖くなった。
- ・車の免許を取るのに30万円もかかるのは意外で、てっきり無料で受けられると思っていてびっくりした。理解が深まり腑に落ちやすかった。
- ・人生の3大資金に「子どもの教育」が入っていたことにびっくり。

学校評価アンケート

アンケートの回答にご協力いただき、ありがとうございました。

【生徒】・【保護者】の集計結果とともに **集計結果** の概要と **考察** をまとめましたのでお知らせします。

集 計 結 果

肯定的な回答 = A「そう思う」・B「少しそう思う」の合計
 否定的な回答 = C「あまり思わない」・D「まったく思わない」の合計

【生 徒】 全 18 項目

- ① 全体的に肯定的な回答が80%以上と高評価である。
 ② 反面、A「そう思う」が50%を下回る項目が7項目あり、注意を要する。
 ③ ②のうち、否定的な回答が20%を超える項目が4項目あり、課題である。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 7 毎日の家庭学習 | 10 悩みや困ったとき先生に相談しやすい |
| 15 早寝早起き・規則正しい生活 | 17 ボランティア活動や地域行事への参加 |

【保護者】 全 21 項目（うち2項目は特別支援学級対象）

- ① 全体的に肯定的な回答が80%以上と高評価である。
 ② 反面、A「そう思う」が50%を下回る項目が11項目あり、注意を要する。
 ③ ②のうち、否定的な回答が20%を超える項目が6項目あり、課題である。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 2 分かりやすい工夫した授業 | 3 学力向上への取り組み |
| 5 毎日の家庭学習 | 8 悩みや困りの先生への相談 |
| 19 施設設備 | 20 個別教育計画を活用した教育活動（特別支援学級対象） |

【教職員】 全 23 項目

- ① 全体的に肯定的な回答が80%以上と高評価である。
 ② 反面、A「そう思う」が50%を下回る項目が19項目あり、注意を要する。
 ③ ②のうち、否定的な回答が20%を超える項目が2項目あり、課題である。

- | | |
|-------------|-----------|
| 8 学習の遅れへの対応 | 22 小中連携活動 |
|-------------|-----------|

考 察**学習について**

- ・保護者からの課題としてあげられる6項目のうち、3項目は学習に関することであり、保護者の学力向上・授業への関心は高い。分かりやすい授業づくりを工夫していくとともに、指導と評価を一体化させる授業改善について、校内研究を通して質を高める必要がある。
- ・生徒・保護者ともに課題としてあがっている家庭学習については、学級担任や教科担任から家庭学習の大切さを伝えるとともに、習慣づける方法を紹介するなどし、生徒が工夫できるよう指導していく。
- ・教職員の自己評価が低い「8 学習の遅れへの対応」については生徒からの評価は高い。今後も「誰一人取りこぼさない」ことを基本とし、個に応じた指導を意識的に行っていく。

教育相談・生活・地域活動について

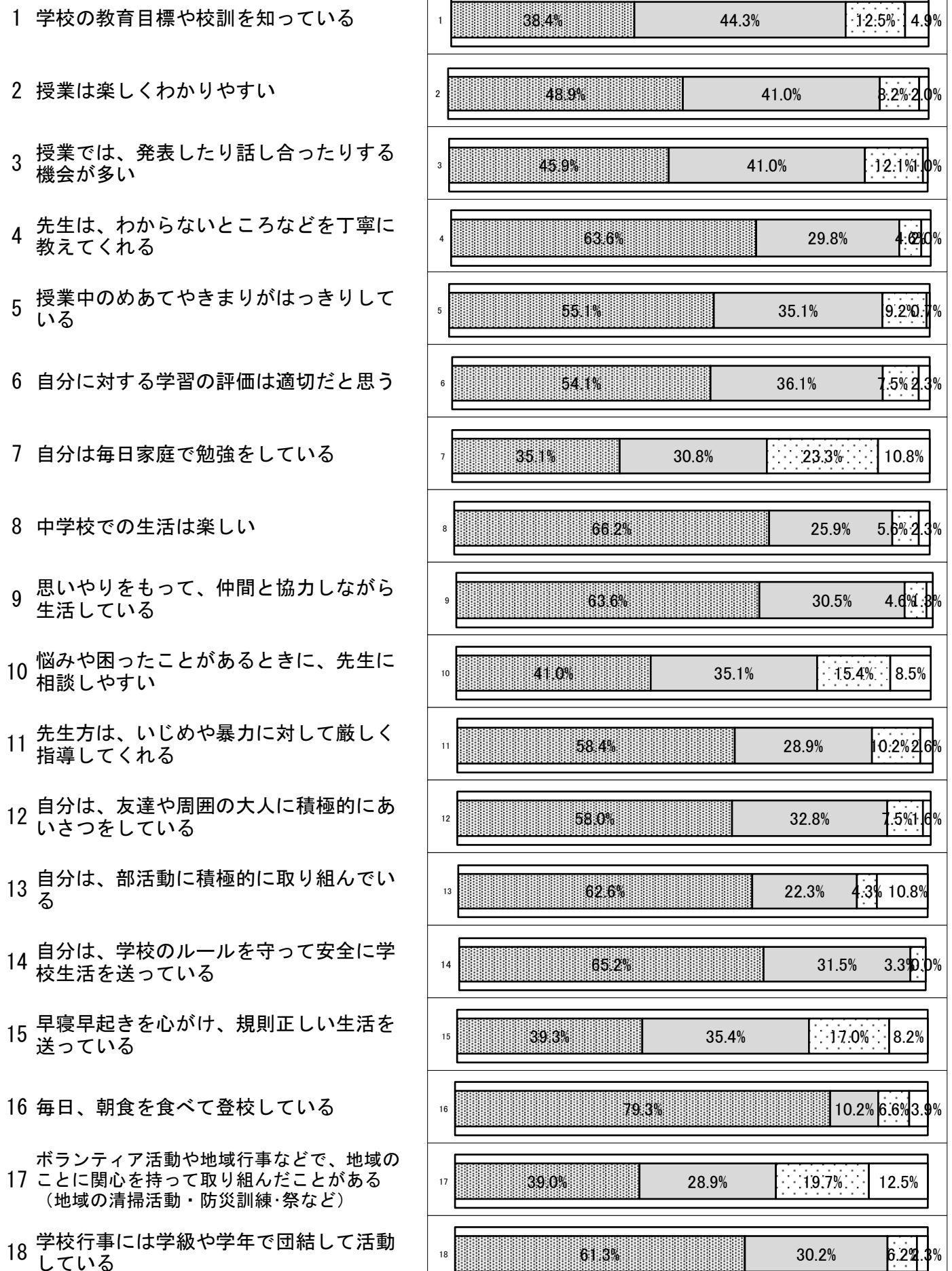
- ・生徒の「悩みや困ったことがあるときに、先生に相談しやすい」については肯定的な回答約75%、否定的な回答25%と二極化している。担任でなくても、いろいろな先生に相談できるということを再度伝え、相談しやすい環境づくりをさらに進めるとともに、生徒が安心して相談できる信頼関係を日々の教育活動の中で構築していく。
- ・90%近くの生徒が「毎日、朝ご飯を食べて登校している」が、「早寝早起きを心がけ規則正しい生活ができています」生徒は約75%である。家庭学習同様に大切さについて伝えていく必要がある。
- ・ボランティア活動や地域行事には68%の生徒が参加している。STEAM教育の推進等、地域の資源を活用した学習等を進める中で、地域活動への関心を高めていきたい。

施設設備について

- ・本館4階や体育館の雨漏り、トイレの不具合等があり、市に改修要求をしている。学校運営協議会でも話題にし、市の広報委員長会議等でも連合自治会長から要求をしていただいた。本館屋上屋根の防水工事と体育館屋根の防水工事は令和6年度秋に着工予定である。

【生徒】 令和5年度 学校評価 アンケート集計結果 令和5年12月

A 思う B 思う C あまり思わない D まったく思わない



【保護者】 令和5年度 学校評価 アンケート集計結果 令和5年12月

A そう思う B 少しそう思う C あまり思わない D まったく思わない

- 1 学校は教育目標や校訓をわかりやすく伝えている
- 2 学校はわかりやすい工夫した授業を展開している
- 3 学校は学力向上に向けて適切に取り組んでいる
- 4 子どもに対する学習評価は妥当である
- 5 子どもは家庭で毎日勉強する習慣が身についている
- 6 子どもは学校生活を楽しく送っている
- 7 子どもは他者を思いやる心が育っている
- 8 学校は子どもたちの悩みなどに適切に対応している
- 9 学校はいじめや暴力のない集団づくりに努めている
- 10 子どもはあいさつがよくできる
- 11 運動会や学習発表会など行事が充実している
- 12 部活動等を通して子どもは学校生活を充実させ成長している
- 13 子どもは心身ともに健やかに成長している
- 14 家庭では子どもの基本的な生活習慣の確立に努めている
- 15 毎日、朝食をとって登校できるようにしている
- 16 学校は仲間づくりを意識した学級・学年経営の充実を図っている
- 17 学校は家庭への連絡や学校HP・おたより等による情報発信を積極的に行っている
- 18 学校はスクールボランティアの推進や地域行事参加など、保護者や地域と連携・協力している
- 19 学校は学習の場として施設設備が充実している
- 20 【特別支援学級の保護者が回答】
学校は個別教育計画を活用し、日々の教育活動を行っている
- 21 【特別支援学級の保護者が回答】
学校は子どもの教育的ニーズに応じて、計画的に行事や授業の交流等を行っている

